

道徳学習指導案 4

1 主題名 地域の絆を再生するためにできること 4-(8) 郷土愛

2 主題について

アセトアルデヒドの生産によって、人々は多くの生活の便利さを享受した。その一方で新潟水俣病を発生させ、阿賀野川流域の人々の健康を蝕み、心を傷付けただけでなく、人々が過去から築いてきた絆を崩壊させた。

蝕まれた健康や傷付いた心を癒し、失われた地域の絆を再生するために、新潟県は様々な取り組みを始めている。それは新潟水俣病問題が他人事ではなく、私たち社会全体で取り組まなければならない問題であることを意味している。

この授業では地域の絆の再生に焦点を当て、現在そして未来に向け、これからの地域再生にとって必要なことや自分ができることについて考えさせたい。また、小・中学校での新潟水俣病の学習の積み重ねの最終学習として、自分たちの地域の安心安全を自分たちで築き上げていこうとする思いを高めさせたい。

3 ねらい

新潟水俣病の発生で失われた地域の絆の再生のためには、新潟水俣病の被害者を社会全体で支えることが重要であることをとらえさせ、自分たちでできることを進んで行おうとする思いを高める。

4 展開のための視点

戦後の急速な工業化の進展は、私たちの生活に大きな変化と豊かさをもたらした。この工業発展の過程で生み出された多くの化学製品は、今日においても私たちの暮らしと深くかかわり、生活に根付いている。しかし、その代償として、新潟水俣病など四大公害病を始めとして、全国で多くの公害が発生した。実際の製品に基づき、このことを生徒にイメージさせ、私たちはかつて発生した公害病とは決して無関係ではないことを実感させる。

また、新潟水俣病により地域の絆が損なわれることとなった。地域再生に向けて失われた地域の絆を再生するためにこれからどうしなければならないかについて考えさせる。このことを焦点化してとらえさせるために、平成 21 年 4 月より施行されている新潟水俣病地域福祉推進条例を取り上げる。条例の意義、目指すものの中から「地域社会の再生」について取り上げ、私たちが地域社会の一員としてどうあらねばならないか、具体的に何をしなければならないかについて考えさせる。

新潟水俣病の学習のまとめとして、また地域に生きる人の一人として、地域の絆再生に向けての自分の思いを小集団で表出させていく。

5 展開例

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
<p>○阿賀野川の位置を確認し、写真を見て新潟水俣病はどんな病気だったかを想起する。</p> <p>□ 新潟水俣病が起こった阿賀野川の位置を確認しましょう。また、新潟水俣病はどんな病気でしたか。</p>	<p>◇新潟水俣病発生の位置症状を確認する。</p>	<p>・補助資料「新潟水俣病紹介写真」</p>	5
<p>●新潟水俣病は公害病である。</p>			
<p>○資料1を読み、アセトアルデヒドの生産が私たちの暮らしにどんな役割を果たしたかを発表する。</p> <p>□ アセトアルデヒドの生産は、私たちの暮らしにどんな影響を与えたのでしょうか。</p>		<p>・資料1「水俣病をもたらしたアセトアルデヒド」</p>	10
<p>●アセトアルデヒドの生産は、我が国工業の発展に貢献した。</p> <p>●アセトアルデヒドの生産は、工業化になくってはならない大切な役割を果たした。</p> <p>●アセトアルデヒドは、現在も多様な用途で今日の豊かな暮らしの糧になっている。</p>	<p>◇プラスチック製品や繊維製品など化学製品の実物を準備し、暮らしとアセトアルデヒドのかかわりのイメージをもたせる。</p> <p>◇補助資料のグラフを提示し、アセトアルデヒドが高度経済成長とともに増産された様子を示す。</p>	<p>・補助資料「昭和電工鹿瀬工場のアセトアルデヒドの生産量の推移」</p>	
<p>○資料2を読み、新潟水俣病が流域の人々に与えた被害についての自分の思いを書き込む。</p> <p>□ 新潟水俣病は、阿賀野川流域の人々の生活にどのような被害や問題を発生させたのでしょうか。また、そのことについて、あなたはどんな思いをもちましたか。</p>		<p>・資料2「水俣病被害」</p>	10
<p>●水銀中毒のさまざまな症状に悩まされる人もいた。</p> <p>●新潟水俣病の発生によって、差別、偏見、ねたみなどが起こり、長い間培われてきた地域の絆が失われた。</p> <p>●豊かな暮らしの影で、苦しんでいる人がいる事に憤る。</p>	<p>◇暮らしの恩恵と地域の絆の喪失を高度経済成長の光と影として対比して捉えさせる。</p> <p>◇いかなる病気であっても、差別してはならないことを確認する。</p>		

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
○資料3「新潟水俣病地域福祉推進条例（前文）」を読み、被害や問題の解決のために取り組まなくてはならないことや問題点は何か話し合う。		・資料3「新潟水俣病地域福祉推進条例（前文）」	10
□ 環境汚染、健康被害、地域における人々の絆の問題を解決するために行わなくてはならないことは何ですか。			
●被害を受けた人を社会全体で支える必要がある。 ●誰もが安心して暮らせる、絆で結ばれた地域社会を実現する必要がある。	◇新潟水俣病地域福祉推進条例で伝えたいことを整理し「観点；絆の再生」へ焦点化する。 ◇失われた絆の具体的な事例を説明しイメージ化する。		
○新潟水俣病地域福祉推進条例で目指す「地域の絆の再生」実現のために、自分がやるべきことを考えシートに書く。			15
□ 「地域の絆の再生」のためには、どんなことが必要か、自分ならばどんなことに参加できるか小集団で話し合い、発表しましょう。			
●地域の人々の結び付きの再生には地域のよさの再発見、地域の力が必要だ。 ●地域の絆を再生するための話し合いの場や活動に進んで参加する。 ●新潟水俣病を正しく理解し、患者さんの苦しみを知る。 ●環境を守る取り組みを進め、環境を守るための意識を高める。	◇小集団で話し合った結果の発表を「地域の絆の再生」のために私たちが考えることとして構造的にまとめて板書する。 ◇意見が出てこない場合は、補助資料3のパンフレットを活用し考えさせる。	・補助資料3「新潟水俣病地域福祉推進条例（パンフレット）」	

《評価》

小集団の話し合いの中で、地域の絆再生のために自分でできることについて提言を発表したり、意見を記入したりすることができたか。（発表場面、ワークシート）

【資料】

- ・資料1 水俣病の原因
- ・資料2 水俣病被害
- ・資料3 新潟水俣病地域福祉推進条例（前文）
- ・ワークシート 「地域の絆を再生するためにできること」

【補助資料1】新潟水俣病の紹介写真図

- ・新潟水俣病発生地域の地図
- ・阿賀野川流域の暮らし（『未来へ語りついで』P.14 写真・砂利船・早朝の漁）
- ・昭和電工鹿瀬工場（『新潟水俣病のあらまし』P.12 写真・昭和電工鹿瀬工場の全景）
- ・水俣病の写真（『未来へ語りついで』P.18 写真・生活するうえでの困ったこと・曲がったまま元にもどらなくなった指）

【補助資料2】図

- ・グラフ「アセトアルデヒド生産量の推移」（『新潟水俣病のあらまし』P.14）

【補助資料3】

- ・新潟水俣病地域福祉推進条例パンフレット

板書計画

「地域の絆を再生するためにできること」

<阿賀野川流域地図>

アセトアルデヒドは私たちのくらしにどんな影響を与えたか。

- ・繊維産業の発展。
- ・香料、電子材料、医薬、食品添加物、粘着材料、印刷インク、プラスチック製造の可塑剤など。

生産量グラフ

私たちが恩恵を受ける。

阿賀野川流域の人々の生活被害の問題

- ・神経症状、精神症状。
- ・地域からの孤立（たたり）。
- ・労働の場から疎外。
- ・生活困窮。
- ・子どもへの就職、結婚。

地域の絆の破壊

新潟水俣病地域福祉推進条例
誰もが安心して暮らせる地域社会の実現。

社会全体で支えていく。



「地域の絆の再生のために」小集団の話し合いのまとめ

- 《支援》
患者さんの苦しみを理解する。
- 《理解》
水俣病理解の啓発、教育の重要性。
- 《話し合い》
地域の絆を再生するための話し合いの場。

7 資料

○資料1 水俣病の原因

阿賀野川は流域面積 7,710 km²、流路延長 210 km に及ぶわが国数々の大河です。豊富な水量を生かし、県境付近では水力発電が盛んです。この水力発電を使用して、アセトアルデヒドの生産が 1936(昭和 11)年より開始され、戦後の経済復興、経済成長とともに生産量を急速に増やしてきました。

当時、アセトアルデヒドはカーバイトに水を加えると発生するアセチレンに、さらに水を加えることで作られていました。この水付加反応の過程で触媒として硫酸第二水銀が使用されました。この触媒として使用された硫酸第二水銀が変化して、メチル水銀が副生されたのです。

この時代、経済活動優先の考え方が強く、環境保全や公害未然防止への意識は高いとは言えませんでした。昭和電工(株)鹿瀬工場でも十分な排水対策はとられず、製造工程内でできたメチル水銀は処理されないまま排水とともに阿賀野川に流出していました。

アセトアルデヒドは、酢酸や酢酸ビニルなどの中間製品です。酢酸はアセテート繊維、酢酸ビニルはビニロンと合成され太平洋戦争後の繊維産業を発展させました。また、プラスチック製造の可塑剤の原料などとして戦後復興期の我が国の産業の発展にきわめて大切なものでした。昭和 40 年以降、全国的にアセトアルデヒドの製造方法はそれまでとは異なっていますが、今日でもアセトアルデヒドから合成される酢酸は、繊維・香料・電子材料・医薬・食物添加物などに、酢酸エチルは粘着材料・塗料・印刷インク等の溶剤などに、その他の誘導品についても生活の中で幅広く使われ、私たちはその恩恵を受けています。

○資料2 水俣病被害

当時の阿賀野川流域では、手軽に入る貴重なタンパク源として川魚が多食されていて、住民は知らないうちに魚を通してメチル水銀を体内に取り入れました。体内に入ったメチル水銀は、一部は脳内へと移行し中枢神経に蓄積され、神経症状、精神症状が引き起こされていきます。

典型的な神経症状としては、手足の先端に行くほど強くしびれたり、痛覚などの感覚がなくなったりといった四肢末梢(ししまっしょう)優位の感覚障害、秩序だった手足の運動ができない小脳性運動失調、言葉がうまく話せない構音(こうおん)障害、視野が狭まる求心性視野狭窄(きゅうしんせいしやきょうさく)、中枢性聴力障害、中枢性平衡障害、振戦(しんせん=振え)などが挙げられます。

自覚症状は、手足・口周囲のしびれ感、疲れやすい、物忘れをする、めまい、転びやすい、こむら返り、力が入らない、耳鳴り、言葉が出ない、匂いや味が分からない、目が見えにくいなど多様で、メチル水銀による中毒症状なのかどうか判別しにくくなっています。

新潟水俣病被害は、被害者の健康を奪っただけではありません。水俣病が発生した始めのころは、原因が分からなかったこともあり、たたりだ、伝染病だと誤解され、地域

から孤立することもありました。

原因が判明してからも、病気のために仕事を辞めさせられる、病気で仕事がうまくできないため仕事を変えられるといったように、被害者は労働の場から疎外されていきました。このことで生活が困窮し、家族の生活が変わった被害者もいました。また、子供が就職や結婚ができないといったことがありました。

救済の補償金を受けることになると、となり近所の人、親戚の人からさえも「金銭目的」「ニセ患者」「補償金での水俣御殿」といった中傷やねたみを受けることも多かったといえます。このため、病気を隠し続けている人もいました。

水俣病は健康を奪ったばかりでなく、地域の絆を破壊し、地域の人々の間に深い溝を生み出したのです。

※資料 1、2 は『新潟水俣病のあらまし』（新潟県）をもとに作成

○資料 3 新潟水俣病地域福祉推進条例（前文） 2009 年 4 月施行（新潟県）

新潟水俣病は、昭和電工株式会社鹿瀬工場から阿賀野川に排出されたメチル水銀を含む排水によって引き起こされた公害であり、第 2 の水俣病として昭和 40 年にその被害の発生が確認された。そして、新潟水俣病は、その流域に暮らす人々の生活基盤であった阿賀野川の環境を汚染したばかりでなく、人々の健康を損ない尊い命をも奪った。さらには、新潟水俣病が発生した地域における人々の絆に深刻な影響を及ぼした。

そして今もなお、健康上の不安や経済的な不安を抱える人、いわれのない偏見や中傷に苦しむ人、その偏見や中傷をおそれ被害の声をあげることのできない人が存在する。

高度経済成長期において、我が国が豊かで快適な社会の実現を追求してきた一方で、全国の各地で様々な公害が発生し、それまでそれぞれの地域で平穏に暮らしてきた人々にとって予想もしなかった甚大な被害をもたらした。このような悲惨な事態に遭った人々を社会全体で支えていくべきであると私たちは考える。そして、新潟水俣病の被害者も高度経済成長期において私たちが豊かさや快適さを享受してきた一方で発生した公害の犠牲となった人々であることにかんがみれば、新潟水俣病の被害者を私たちが社会全体で支えていかなければならない。

ここに私たちは、新潟水俣病の被害者がこれまで抱えてきた痛みに向き合い、新潟水俣病の被害者を社会全体で支えるとともに、このような悲惨な公害が二度と繰り返されることなく、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目指すことを決意してこの条例を制定する。

○補助資料3 新潟水俣病地域福祉推進条例パンフレット

「新潟水俣病地域推進条例」では、新潟水俣病患者の福祉の増進、理解を深め中傷や偏見をなくすための教育・啓発の推進、地域に及ぼした深い亀裂の修復などを目的として様々な施策を進めることとしております。新潟水俣病患者を含め、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けて、皆様のご理解とご協力をお願いします。

1 保健福祉施策

新潟水俣病患者の療養や健康管理等にかかる経済的負担の軽減を図り、生涯にわたって新潟水俣病患者を支援するため、新潟水俣病福祉手当を支給します。また、阿賀野川流域市町村と連携して、相談窓口や保健師訪問などの新潟水俣病患者支援ネットワークを構築します。

2 教育・啓発の推進

新潟水俣病への理解を深めてもらい、その経験や教訓を将来に伝える教育の推進、啓発活動の充実を図ります。その情報発信拠点として環境と人間のふれあい館を位置づけ、研修会や講演会を実施します。また館内の展示を子ども向けに整備するなど、水俣病学習の促進を図ります。

3 地域社会の再生・融和の促進

阿賀野川流域の環境資源等を活用したイベントや情報発信等を通して、流域市町と被害者を含めた地域住民らが協力して地域の再生・融和に取り組むことを促進します。

(『誰もが安心して暮らせるためにー平成21年4月1日新潟水俣病地域福祉推進条例がスタートー』新潟県福祉保健部生活衛生課)

地域の絆を再生するためにできること

名前 _____

1 新潟水俣病は、どんな病気でしたか。

2 アセトアルデヒドの生産は、私たちの暮らしにどんな影響を与えましたか。

どんな製品が作られる？	その製品による私たちの暮らしへの影響は？
-------------	----------------------

3 新潟水俣病はどのような被害や問題を発生させましたか。

被害や問題	そのことについてのあなたの考え
-------	-----------------

4 新潟水俣病地域福祉推進条例には、私たちは何を行わなくてはならないとありますか。

5 「地域の絆の再生」のために必要なことを考えましょう。

あなたの考え	小集団の話し合いのまとめ
--------	--------------